

# はかた 博多人形

所在地/福岡市博多区  
指定/無形文化財



「長崎幻影」陶彫彩色 中村信喬氏 作  
九州国立博物館蔵

画像提供 朝日新聞社（撮影 山崎信一氏）

福岡市の博多を中心に、今から約 400 年前から作られた土を焼いた人形のこと、そのはじまりにはいくつか説があります。作り方の特徴は、人形の原型の外側に板状の粘土を貼り付けて「型」を作ることと、貝殻を細かく砕いた白い「胡粉」を人形に満遍なくつけて乾かし、彩色（※1）することです。今では「型」は石膏などで作られ、彩色も化学的な絵の具を使いますが、伝統的な博多人形とは「型」と「胡粉」を下地にした彩色であるといえます。

博多人形の代表的な作品には以下のものがあります。能や歌舞伎の登場人物、美人や童、武士、七福神などの縁起もの、雛人形や桃太郎などの節句もの、そのほか干支（※2）などもあり、多種多様です。また、博多人形師は、博多の夏の風物詩（※3）である祇園山笠の飾り山や昇き山の制作もしています。

博多人形は、福岡に旅行できた人々のお土産や特別な日の贈り物としてとても人気で、外国にまでその名をとどろかしています。

このような博多人形の伝統を守るため、博多人形商工業協同組合などを中心に博多人形師の育成も行われています。

※1 彩色：色を付けること。

※2 干支：ここでは、ね、うし、とら、う、たつ…の十二支のこと。

※3 風物詩：その季節をより意識に特徴づけることができる、物やこと。

## 【もっとくわしく調べたい】

○はかた伝統工芸館 福岡市博多区上川端町 6-1（櫛田神社横） TEL 092-409-5450